

城北中学校区新統合小学校整備に活発な意見 新統合小整備事業にかかる地域懇談会を開催

令和7年4月の開校を予定している城北中学校区新統合小学校について、「城北中学校区新統合小学校建設基本計画（案）」や校舎等施設の配置設計案へのご意見をお聞



統合小学校完成イメージ
(現段階の設計案に基づくもの)

きするため「城北中学校区新統合小学校整備にかかる地域懇談会」を10月22日から28日に城北中学校区の小学校4校において開催しました。



地域懇談会の様子（泉台小学校会場）

城北中学校区新統合小学校建設基本計画は、令和3年1月策定の「飯山の新たな学校づくり計画」、令和3年3月策定の「第2次飯山市教育大綱」を踏まえ、新統合小学校の教育方針・教育内容、必要な施設や整備コンセプトなどを示すもので、6月から3回の会議や先進地視察を行うなどして検討委員会での検討を行い、取りまとめたものです。

地域の方々延べ約140名にご参加いただいた地域懇談会では、きめ細かな教育ができる学級編成、ふるさと学習の継続、多様な児童が安心して通うことができる施設整備などの要望が出されたほか、令和4年度以降本格的な検

討を始める、通学路の整備や通学方法、児童クラブの運営方法、4校の校舎の後利用に際しても多くの意見や要望が出されました。

今後、地域懇談会では建設基本計画の策定と、基本設計業務を完了させる予定です。
問い合わせ先
飯山市教育委員会事務局
子ども育成課 学校教育係
☎67-0741（直通）

城南中学校のチームが参加 北信越中学校駅伝競走大会で健闘



城南中学校女子駅伝チーム

11月27日、第15回北信越中学校駅伝競走大会が長野県松本平広域公園内周回コースで開催され、飯山市から城南中学校のチームが男子の部・女子の部にそれぞれ出場しました。

城南中学校は今大会の予選を兼ね11月7日に同会場で行われた長野県中学校駅伝競走大会に出場。そこで男子が8位（全27チーム中）、女子が6位（全20チーム中）に入り、男女揃って北信越大会に駒を進めたものです。



城南中学校男子駅伝チーム

男女ともに20チームが出場した北信越大会の結果は、男子の部が第15位、女子の部が第16位という成績を収めました。

Hello! シャーロット先生

小学校での英語教科の授業を担当するALT（外国語指導助手）として、オリアリ・シャーロット・セシリアさんが令和3年11月に新たに着任し、11月30日に足立市長を訪問しました。

足立市長は「子どもたちが英語を好きになり、そして使えるようお力をいただきたい」と話すと、シャーロット先生は「子どもと共に楽しい英語の授業づくりに努力したい」と応えました。

イギリス出身のシャーロット先生は日本の文化にも興味があるそうで、「飯山では多くの寺を巡ってみたい」とも話していました。今後、飯山小学校、秋津小学校、木島小学校での英語の授業を担当します。



(写真左から) 足立市長、シャーロット先生、松木教育長

SDGs「質の高い教育をみんなに」の目標達成へ （株）藤巻建設が城北中に書籍を寄贈



城北中学校・青木修校長（写真左）に目録を手渡す（株）藤巻建設・藤巻代表。

株式会社藤巻建設（藤巻篤代表取締役）より、城北中学校に百科事典一式を寄贈いただき、12月7日に同校で贈呈式が行われました。贈呈式に出席した藤巻代表からは「SDGsにある『質の高い教育をみんなに』の目標に向けて今回書籍を寄贈させていただきました」と話がありました。寄贈を受けた同校の青木修校長は「生徒の知的好奇心を高める百科事典を寄贈いただきありがたい。有効に活用したい」と感謝の言葉がありました。

廃校を利用した先進事例を視察 飯水地方教育委員会連絡協議会視察



施設内には図工室で使用されたテーブルを活用した食堂も。

飯山市および栄村の教育委員で組織される飯水地方教育委員会連絡協議会では、11月17日、飯綱町の「いづなコネクト」の研修視察を行いました。「いづなコネクト」は廃校を改修した複合施設で単なる公共施設に留まらない、町と都市を結び活性化の核となっている施設です。

飯山市でも今後学校統合を計画していることから、参加した教育委員からは多くの質問が出され、意義のある視察となりました。

人権学習シリーズ

みんなちがってみんないい

しるやま保育園長 中村まゆみ

「おはようございます」の声と共に元気な笑い声と泣き声で、にぎやかに保育園の一日が始まります。子どもにとっては一番安心のことができる家庭から離れ、初めての集団生活です。発達に応じ一人遊びから、徐々に友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じています。そして、友達との関わりの中で自分の気持ちや伝えたい、友達の思いに気付いたり、反面うまく思いが伝わらず泣いて訴えたりと、「せんせいあのね」の言葉がたくさん聞かれます。さまざまな感情を経験しながら自分らしく育っている子ども達です。

「自分を大切に思う気持ち」を増やして行ってほしいと願っています。

表題は童謡詩人金子みすゞの詩ですが、保育園でもこのような思いを大切に、一人一人の個性を認め、気持ちに寄り添い、ありのままを受けとめる保育を心がけています。そして、「自分はこれでいいんだと思う気持ち」

ある日の給食時、担任が男児にお箸が持てるようになったことを褒めると、「先生のおかげだよ」との返事が返ってきました。トイレ掃除中の保育士には「先生ありがとう。一生懸命働いたからおやつ食べてもいいよ」と声をかけてくれたこともありました。保育園での会話やつばやき、子ども達の姿に感動することや気付かされることが多い毎日です。また、「ぼく○○できないんだよ」「○○むずかしいなあ」等々まっすぐな思いを伝えてくる子どもの姿があります。

集団生活の中でさまざまな経験をしながら、困ったとき、悩んだときには、素直に「助けて」と言える人になってほしいと思います。